皆さんはカラスウリを見たことがありますか。秋になると、大きさ6cm前後のオレンジ色のウリがぶら下がったりしますね。写真1。では花はご存じでしょうか。写真2。お花は夏です。一休どんな花なのでしょうか。色んな花の周りにきれいなレースが付いています。直径10cmほどでしょうか。優雅ですね。

第2問。花についてこのレースはどんな意味があるのです。花は、虫を惹き付けて蜜を与える代わりに、虫に花粉を運んでもらい、虫は花粉を運んで蜜を食べます。花は大きいか花を作ると、植物には大変なエネルギーが必要です。だから、答えは「省エネ」です。何となく大きな花に見せて、ともかく蜂を従えていくための工夫です。
第3問  この花が目立って咲くのは一日のいちごろでようか。答えは夜です。暗い中に、この花の香りがフワっと浮かんで見えるのです。なぜ、この花の香りを嗅いでほしいと思います。花は、香りと白い姿で虫を惹き付けています。

第4問  一体どんな虫が来るのでしょうか。写真2では、咲いている花の横には、これから咲く花のつぼみが見えます。だから答えは、この花の奥の蜜まで届く口をもった虫ということになります。具体的には、ズンメという蛾の仲間がよく来ます。写真3はその仲間のキリオスズメという蛾で、口の長さは5cmもあるでしょう。これならオマまで届くuben

写真3: キリオスズメの長い口

植物は、花の色と香りで虫を惹き付けて、花粉で虫を惹き付け、花粉をもらいながら花粉を運ぶのです。つまり、花を見たら、花の深さをもとに、どんな虫がその花に花粉を運ぶのか考えてみてください。そして、実際に来た虫が予想どおりだったか確認すると、面白いと思います。

工夫を凝らした“偽りの花”もあります。写真4は、ハングショウという植物です。花の傍にある葉の半分が白いので、白粉で半分化粧を使ったという言葉です。花は目立たないのですが、横の葉が白く目立つので虫を惹き付ける役割をしていますのでしょう。

写真4: ハングショウの葉